

Journal of Inclusive Education 投稿規程

1

本誌投稿原稿の筆頭著者もしくは責任著者は、一般社団法人アジアヒューマンサービス学会の会員に限る。なお、無料会員登録は本学会公式サイト内の「[リンク：MEMBER REGISTRATION](#)」より行える。

2

本誌への投稿原稿は、インクルーシブ教育に関連する諸領域の進歩に寄与する学術論文とし、他誌（学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要、単行本）に掲載されていないもの、掲載予定でないもの、あるいは投稿中、投稿予定のないものに限る。ただし、学会発表抄録や科研費等の研究報告書はその限りではない。

3

本誌への投稿原稿は、本学会公式サイト内の「[リンク：SUBMISSION FORM JIE](#)」より、『JIE-投稿票』及び『JIE-投稿様式』の Word ファイル 2 点をダウンロードし、執筆規定（2018 年 9 月 1 日改訂）に従って作成すること。

4

本誌における掲載論文の区分は、下記の基準によるものとする。

- 「原著（ORIGINAL ARTICLE）」とは、独創性があり、結論が明確である研究報告。
- 「総説（REVIEW ARTICLE）」とは、特定の分野やテーマに関する先行研究をまとめた研究報告。
- 「短報（SHORT PAPER）」とは、斬新性があり、速やかな掲載を希望する研究報告。
- 「症例報告（CASE REPORT）」とは、会員・読者にとって示唆に富む、興味ある症例報告。

- 「実践報告（ACTIVITY REPORT）」とは、会員・読者にとって示唆に富む、興味ある実践報告。

5

本誌への投稿原稿は、JIE 編集事務局の E-mail アドレスに送ること。

6

投稿に際しては、共著者全員がその内容に責任をもつことを承諾したものとする。

7

投稿原稿は、以下に沿ったものとする。

- ヒトを対象とした研究に当たっては、Helsinki 人権宣言に基づくこと。
 - ー その際、インフォームド・コンセント、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会、それに準ずる機関の承認を得ていることが望ましい。
- 個人情報保護に基づき、症例報告等では匿名化すること。
 - ー なお、十分な匿名化が困難な場合には、論文発表とそれに伴うリスクについての同意を文書で得ておくこと。

8

投稿論文の採否は、その分野の専門家である複数の査読者の意見を参考に編集委員会で決定する。修正を要するものには編集委員会の意見を付けて書き直しを求める。修正を求められた場合は定められた期限内に修正原稿を再投稿すること。期限を過ぎた場合は新規投稿論文として処理される。

9

著者による校正は、文章の書き換え、図表の修正は原則として認めない。

10

本誌は電子ジャーナルとして、本学会公式サイト
の「[リンク:JIE](#)」上にて発行する。原則として、
紙媒体による発行はしない。

11

本誌掲載後の論文の著作権は、一般社団法人アジ
アヒューマンサービス学会に帰属し、掲載後は本
学会の承諾なしに他誌に掲載することを禁じる。

12

利益相反の可能性がある商業的事項（コンサルタ
ント料、寄付金、株の所有、特許取得など）を報
告しなければならない。

13

英文論文の場合は、必ず英語を母国語とする外
国人に校閲（ネイティブチェック）を受けること
とし、投稿の際にそれを明示すること。

14

本誌への論文掲載料は実費負担とする。

2016年2月27日施行

2018年9月1日改訂



Journal of Inclusive Education 編集事務局
E-mail : inclu.edu.hensyu@gmail.com

Journal of Inclusive Education

執筆規定

1

投稿区分ごとの原稿枚数等制限は以下の規定に従うものとし、様式に合わない原稿は受理しない。

投稿区分	論文原稿 枚数 (タイトル頁除く)	要旨	Key- word
ORIGINAL ARTICLE 原著	20 枚以内	500 語 程度	5 語 以内
REVIEW ARTICLE 総説			
SHORT PAPER 短報	15 枚以内		
CASE REPORT/ ACTIVITY REPORT 症例報告・実践報告			

2

言語は和文もしくは英文とし、和文フォントは「MS 明朝」、英数字フォントは「century」を使用するものとする。

3

原稿のフォントサイズ及び各項目の事項は以下の規定に従うものとする。

- 標題： 和題は太字の20ptとし、副題をつける場合は太字の14ptとし前後を「- (ダッシュ)」で囲むこと。和文の標題の下に記載する英題は、14ptとする。なお、英題の副題は「; (コロン)」で区切ること。
 - ・ 高等教育機関における教員養成制度と多様性教育の動向 —日本、韓国、アメリカ合衆国、イギリスの研究を中心に—
 - ・ The Current Issues of the Teacher Training System and Diversity Education in Higher Education Institutions; Based on the Research of Japan, Korea, US and UK
- 著者： 著者は左から順に記載し、12ptとする。和文の著者名の下に記載する英文（ローマ字）の著者名は、7ptとする。なお、所属の表記は、著者名の後に上付きの片かっこ数字を用いる。また、第1著者と責任著者が異なる場合、所属表記の後に「*」を付けること。
 - ・ 田中 太郎¹⁾， 佐藤 次郎²⁾³⁾*
- 所属： 和文は10pt、英文は6ptとする。著者の並び順に従って、片かっこ数字を用いる。学部や部署名、またはそれらに準じる範囲まで記載することができるものとする。役職等は記載しない。

- 連絡先： 第1著者もしくは責任著者の連絡先を記載すること。責任著者の場合、アドレスの前に「*責任著者：」を付けること。
- リスト： 論文内で使用するリストは、原則として「I.」から始まり「1.」、「1)」、「(1)」以下任意とする。なお、「I.」は太字の12ptとし、「1.」は太字の10ptとする。「1)」以下は本文の規定に従う。
- 本文： 原則10ptとし、体裁上やむ負えない場合は最低6ptまでとする。なお、本文中に使用するかっこやコンマ、ピリオド、スペース、ハイフンは、論文内で半角か全角のどちらかで統一すること。
- 図表： 図題は、図の下に記載すること。表題は、表の上に記載すること。図表共に明瞭なものを用いて、原則として題名はテキストであること（図でないこと）。図表の幅は、文字幅までとするが、文字幅未満の場合は中央揃えとする。

4

「著者名」及び「著者連絡先」以外には著者を特定できる情報を記載しない。

5

原稿は、ひらがな・口語体・現代仮名遣い・常用漢字・半角英数字を使用することとする。なお、原稿中の数字は、主に算用数字を用いることとする。

6

略語を用いる場合は初出時にフルテキスト、もしくは和訳も併記すること。

7

数量はMKS (CGS) 単位とし、mm、cm、m、ml、l、g、kg、cm² などを用いることとする。

8

特定の機器・薬品名を本文中に記載するときは以下の規定に従うものとする。

- 機器名： 一般名（会社名、商品名）と表記すること。
 - ・ MRI (Siemens 社製, Magnetom)
- 薬品名： 一般名（商品名®）と表記すること。
 - ・ 塩酸エペリゾン (ミオナール®)

文中での文献の記載については、以下の規定に従うものとする。

- 文中の引用表記は、「引用先 (年) 」もしくは「 (引用先, 年) 」とする。人名の場合、ファミリーネームもしくは姓のみ記載する。

- ・ 佐藤 (2003)
- ・ (佐藤, 2003)
- ・ Kim(2005)
- ・ (Kim, 2005)
- ・ 文部科学省 (2010)
- ・ (文部科学省, 2010)

- 共著の場合は、文中には最大3名まで記載すること。

① 2名：「・」もしくは「&」で区切ること。

- ・ 佐藤・鈴木 (2009)
- ・ (佐藤・鈴木, 2009)
- ・ Kim & Lee(2008)
- ・ (Kim & Lee, 2008)

② 3名：「・」もしくは「, &」で区切ること。

- ・ 佐藤・鈴木・高橋 (2012)
- ・ (佐藤・鈴木・高橋, 2012)
- ・ Kim, Lee & Park(2010)
- ・ (Kim, Lee & Park, 2010)

③ 4名以上：「・」もしくは「, 」で区切った後、「ら」もしくは「et al.」をつけること。

- ・ 佐藤・鈴木・高橋ら (2012)
- ・ (佐藤・鈴木・高橋ら, 2012)
- ・ Kim, Lee, Park et al.(2015)
- ・ (Kim, Lee, Park et al., 2015)

- 一度に複数の文献を引用する場合には、文献の間を「;」で区切ること。

- ・ 佐藤 (2003) ; 鈴木 (2004)
- ・ (佐藤, 2003 ; 鈴木, 2004)
- ・ Kim(2005); Lee(2006)
- ・ (Kim, 2005; Lee, 2006)

- 異なる文献を引用し、著者名かつ発表年が同一の表記となる場合は、発表年の後にアルファベットを付けて区別すること。

- ・ 佐藤 (2003a) 佐藤 (2003b)
- ・ Kim(2005a) Kim(2005b)
- ・ 文部科学省 (2010a) 文部科学省 (2010b)

文末の文献リストについては、以下の規定に従うものとする。原則として引用文献のみ記載し、各記載項目については、以下の規定に従うものとする。なお、文献リスト中に使用するかっこやコンマ、ピリオド、スペース、ハイフンは半角で統一する。

- 記載方法： 学術論文及び学会発表、書籍、資料、Webサイト等は、①～⑤のとおりとする。

① 学術論文： 「著者名 (出版年) タイトル. 雑誌名, 巻(号), ページ番号.」とする。

- ・ 田上恭子・富澤登志子・北島麻衣子・工藤うみ (2012) グループワークを組み合わせさせた運動プログラムの心理的効果：糖尿病患者に対する効果的なプログラムの開発に向けて. *Asian Journal of Human Services*, 2, 67-80.

② 学会発表： 「発表者名 (発表年) タイトル. 資料名, 大会名, ページ番号.」とする。

- ・ 外山紀子 (2014) 心身相関的理解の現象依存性. 日本認知心理学会発表論文集, 日本認知心理学会第12回大会, 34.

③ 書籍： 「著者名 (出版年) タイトル. 出版社名.」とする。

- ・ 高藤昭 (1994) 社会保障法の基本原理と構造. 法政大学出版社.

i. 編集者と著者が同じ場合は、姓名の後に「(編)」を記載する。編集者と著者が別の場合は、タイトルの後に「編集者の姓名(編)」を記載すること。

- ・ 内藤哲雄 (2008) PAC 分析を効果的に利用するために. 内藤哲雄・井上孝代・伊藤武彦・岸太一(編), PAC 分析研究・実践集 1. ナカニシヤ出版, 1-33.
- ・ 宮本美沙子・奈須正裕(編)(1995) 達成動機の理論と展開. 金子書房, 3-7.

ii. 翻訳書の場合「原著者姓名 (原書の出版年) タイトル. 原書の出版社. 訳者名(訳) (訳書の出版年) 訳書のタイトル. 訳書の出版社. ページ番号.」とする。

- ・ Deci EL(1975) Intrinsic motivation. Plenum. 安藤延男・石田梅男(訳) (1980) 内発的動機づけ—実験社会心理学的アプローチ—. 誠信書房. 20-31.

④ 資料： 発行者名 (発行年) 資料名.

- ・ 文部科学省 (2010) 特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議審議経過報告.

⑤ Web サイト： 「管理者名. サイト名. 閲覧日. URL.」とする。なお、ページの公開日もしくは更新日が分かる場合、サイト名の後に「(公開日もしくは更新日)」を記載すること。

- ・ 日本政府観光局. 統計データ国籍/月別訪日外客数 (2003年～2018年). 2018年8月22日最終閲覧.
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/

- 記載順： 文献は著者のアルファベット順または本文での引用順のどちらかの順番で記載し、片かつこの通し番号をふること。

1) Aiko KOHARA,	1) 引用順 1
2) Beth F. Smith,	2) 引用順 2
3) CW HAN,	3) 引用順 3 ...
...	

- 引用先名： 人名の表記は、引用元の表記に合わせる。また、共著の場合は、最大6名まで記載すること。

① 6名以内：「・」もしくは「, &」で区切る。

- ・ 高橋甲介・松田果織・宮田こころ (2017) 自閉症スペクトラム障害児における排他律を用いた人名理解の指導効果に関する検討. 教育実践総合センター紀要, 16, 137-144.
- ・ Plavnick Joshua B., Kaid Tiffany, & MacFarland Mari C. (2015) Effects of a School-Based Social Skills Training Program for Adolescents with Autism Spectrum Disorder and Intellectual Disability. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 45(9), 2674-2690. doi: 10.1007/s10803-015-2434-5

② 7名以上：「・」もしくは「, 」で区切った後、「ら」もしくは「et al.」をつける。

- ・ 工藤 玲佳・田村 由馬・田宮 創・落合香・餅 脩佑・須藤 誠ら (2018) 運動中の映像視聴による運動効率と自律神経活動への影響～健常成人パイロットスタディー～. *Total Rehabilitation Research*, 6, 73-82. doi: 10.20744/trr.6.0_73
- ・ Zheng Zhi, Warren Zachary, Weitlauf Amy, Fu Qiang, Zhao Huan, Swanson Amy et al. (2016) Brief Report: Evaluation of an Intelligent Learning Environment for Young Children with Autism Spectrum Disorder. *Journal of Autism and Developmental Disorders*, 46(11), 3615-3621. doi: 10.1007/s10803-016-2896-0

- 異なる文献を引用し、著者名かつ発表年が同一の表記となる場合は、発表年の後にアルファベットを付けて区別すること。なお、文中の表記と合わせる (9-(4))。

- ・ 久保真人・田尾雅夫 (1994a) 看護婦におけるバーンアウト・ストレスとバーンアウトとの関係―. *実験社会心理学研究*, 34, 33-43.

- 英語雑誌名はイタリック体とすること。

- ・ Bies RJ, Martin C & Brockner J (1993) Just laid off, but still a good citizen? Only if the process is fair. *Employees Rights and Responsibilities Journal*, 6, 227-238.

- 文献にDOI(Digital Object Identifier; デジタルオブジェクト識別子)がある場合、各文献の末尾に「doi:」として「10.1021」から記載すること。

- ・ Han CW, Lee EJ, Iwata T, Kataoka H & Kohzuki M (2004) Development of the Korean version of Short-Form 36-Item Health Survey: health related QOL of healthy elderly people and elderly patients in Korea. *The Tohoku Journal of Experimental Medicine*, 203, 189-194. doi: 10.1620/tjem.203.189.

2016年2月27日施行

2018年9月1日改正